

<西方地域>

■竜の頭

激しい雨は川上にも広がり、やがて川は水しぶきを上げて流れ始めた。ますます激しくなった雨のなかで、雷鳴が響き渡り、渦を巻いて雲が流れたかと思うと、竜の胴体は黒雲に包まれて空高く上がっていった。

残った竜の頭は、そのまま山になって松などが生え、今も「竜の頭」と呼ばれて、大字深程ふかほどに西方村からの山続きの形で川原に突き出している。